

WWF for a living planet®

八重山地域の実情からみた エコツーリズム推進の課題

～『石垣島・白保持続的な地域づくり』の教訓～



第2回エコツーリズム推進に関する基本方針検討会
平成20年1月29日
WWFサンゴ礁保護研究センター長 上村 真仁

しらすサンゴ村

WWF

エコツーリズム推進法に対する 問題認識

- この法の主目的は何か？
- 誰のためにエコツーリズムを推進するのか？
- 構想を策定する地域とは何か？
- 地域の構想を誰が取りまとめるのか？
- 生物多様性を保全できるか？



しらすサンゴ村

WWF

白保集落の人々と自然

- 人々は、サンゴ礁をはじめとする自然資源の恩恵を受け、自然との強い精神的な絆を有している。



Photo by Furuya Chikako

しらすサンゴ村

WWF

観光利用の現状と課題

- 世界的に注目されるサンゴ礁が観光資源となる。
- 20年ほど前から民宿、シュノーケル観光がスタート。
- 村内に11軒の民宿、8軒のシュノーケル事業者が営業。
- 風紀の乱れや治安の悪化に対する集落の心配が高まる。
- 域外からの参入に対する不満も表れている。
- 観光によるサンゴ礁への被害などが懸念される状況。
- 年間1万人以上のシュノーケル観光客。



しらすサンゴ村

WWF

WWFサンゴ礁保護研究センターの活動

- 「白保持続的な地域づくりプロジェクト」の概要

“「生物多様性の保全」～人に焦点をあてた自然保護～”

人の暮らしと自然の利用が密接な関わりを持った地域では、その保全を成功させるためには、地域の人々の参加が不可欠である。

科学的な情報だけでなく、長い歴史の中でその地域の人々が育んできた知恵や技、慣習をベースとした包括的な自然保護の仕組みを確立することが重要。




しらすサンゴ村

WWF

白保持続的な地域づくりプロジェクト

- ◆人づくり (海と共生する知恵と文化の継承)
- ◆組織づくり (組織体制づくり、ルールづくり)
- ◆産業づくり (持続的、継続的活動基盤の確保)

による内発的な地域の活性化を支援する。



“しらす子どもクラブ”の活動
白保村ゆたいてい憲章の策定支援
“白保日曜市”の支援

しらすサンゴ村



しらほさかなわくうみほぜんきょうぎかい

白保魚湧く海保全協議会

～コミュニティによるサンゴ礁資源の保全と活用～

7



白保魚湧く海保全協議会の設立

(2005年7月15日設立)

- 海とともに暮らしてきた先人の生活文化に敬意を表し、伝統的なサンゴ礁の利用形態を維持・発展させるとともに、集落をあげて白保の海とその周辺の自然環境・生活環境の保全と再生を図り、適切な資源管理を進めることで地域の持続的な発展に寄与することを目的とする。
- 構成は、自治公民館、老人会、協和会、畜産組合、青年会、地元漁業組合、観光事業者、小学校、中学校、自然保護団体など

8



観光事業者のルールの策定

(2006年6月)

- いつまでも白保の海を使い続けるために

いつまでもシュノーケル観光が続けられるように観光事業者自らが厳しいルールを設置し、白保サンゴ礁の観光資源であるサンゴや海の生き物への影響が無い範囲での観光を遵守します。

白保サンゴ礁海域では、将来的に協議会のもとで、観光受入数を適切に管理しながら観光を行うことを目指します。

このため新規に白保サンゴ礁海域を使用した観光を行うおうとする者は、協議会へ事業計画の届出を行い、先行して営業している事業者と調整の上、海域の利用を開始する必要があります。

9



生物多様性の保全に対する地域の取り組み

- 協議会では、観光ルールの他、率先して地域の環境保全に取り組んでいます。



10



伝統的な知恵を継承する地域での取り組み

- 伝統的な海との関わりを継承する活動も行っています。



11



プロジェクトから得た知見

- 自然資源を持続的に管理していくためには地域住民の参画が不可欠である。
- 地域には、長い歴史の中で自然資源の利用について慣習や制度が存在する。
- 現在まで、その資源を維持、管理してきた地域住民にはその資源から生み出される利益を享受する権利がある。
- 地域での保全活動を持続的に支える仕組み(担い手、財源)として、エコツーリズムは魅力的である。
- 地域の利害調整が可能な範囲は、コミュニティレベル、人口規模2,000人程度までではないか。

12





基本方針への提案

- 生物多様性の保全、自然と調和した伝統的な暮らしの継承を図るものであること。
- 地域の歴史や文化、暮らしと自然の関わりりに配慮した特色ある地域づくり、シマづくりとしてのエコツーリズムを促進すること。
- 生物多様性ととも暮らし人々や、その保全に貢献する人々が恩恵を受けることのできる仕組みとすること。
- 地域の慣習や制度、既存のローカルルールを尊重、配慮すること。
- 精神性や伝統文化など無形のものを指定し、守ることが出来る仕組みを盛り込むこと。

13



地域のオーナーシップが
生物多様性保全の第一歩となる！

ご清聴ありがとうございました。

14

